

キツリフネ

Impatiens noli-tangere

ツリフネソウ科

名前の由来

花が黄色く、形が帆かけ舟をつり下げたように見えることから名付けられた。学名の*Impatiens*には「我慢できない」という意味があり、これは果実にさわると瞬間的に縦に割れて、果片が渦巻状に巻き上がって中の種子を勢いよくはじきとばす性質を表したものである。漢字名：黄釣船

形態的特徴

高さ40～80cmになる。葉の先は円く、縁にある鋸歯も浅く円味を帯びるため、葉全体が円くやわらかい印象がある。花は黄色く袋状で、上部の葉の根元からぶら下がって咲く。花の内側に赤い斑点、左右に大きな花弁があり、後方は尾状に細く下に伸びる。

類似種と見分け方

ツリフネソウ。ツリフネソウの花は紅紫色。葉先はとがり、縁も鋭い鋸歯があるため、葉全体は鋭い感じがする。また、茎の節付近に濃い紅紫色の毛が密生するのも特徴。



キツリフネ



キツリフネ。花は黄色く、葉は丸みを帯びる



キツリフネとツリフネソウ。混ざって生えるときもある



類似種のツリフネソウ。花はピンク色で、葉はとがり、茎上部の節付近に紅紫色の毛が密生する

生活サイクル

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
開花期			■									
結実期				■								

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種) 草花

(外来種) 草花

哺乳類

(水辺) 鳥類

(草原・樹林) 鳥類
ワシ・タカ

生育環境・分布

低地から山地の湿った林の中や沢沿いの湿地に生育し、しばしば群生する。また、湿原の周辺などにも群生する。

分布：東アジア・シベリア・北アメリカ・ヨーロッパ。

国内分布は、北海道から九州。

北海道内分布は、全道。

十勝地方では、湿った林内や林縁、沢沿いなどで普通に見られる。しばしば群生する。



キツリフネ。湿ったところによく群生する

生活史

開花時期：6～8月

開花までの年数：1年以内

寿命：1年草。

他生物との関わり

キツリフネの花粉はマルハナバチによって運ばれる。花の後ろに長く伸びた部分に蜜がたまり、マルハナバチが蜜を吸おうともぐりこむと、花の入り口上部にある雄しべからマルハナバチの背中に花粉がつくような仕組みになっている。マルハナバチが花の入り口から入らず、蜜がたまる部

分に外から穴をあけて吸う場合もあり、その場合花粉は運ばれず、花にとってはメリットがなく蜜だけが無駄に吸われたことになる。そのため、こうした花粉運搬を伴わない蜜の吸い方は「盗蜜」とよばれる。



キツリフネの実



キツリフネの種子。実に触れると種子が弾け飛ぶ

興味深い話

■キツリフネの開花直後の雌しべは、雄しべに隠されていて見えないが、花の終わりの頃になると、ハチが何度も花にもぐりこんだために雄しべはすり切れ花粉もすっかりなくなって、その下から初めて雌しべが出てくる。そして今度は雌しべが他の花の花粉を受け取ることが可能となる。このようにキツリフネは自分の花粉で受粉する自家受粉を防いでいる。

■十勝地方のアイヌ語では「カッコクムン」、「カッコカムタチ」という。



キツリフネ

参考文献

「改訂版 牧野新日本植物図鑑」牧野富太郎 北隆館 1989
「北海道植物図譜」滝田謙讓 自費出版 2001
「日本の野生植物 草本Ⅱ」佐竹義輔・大井次三郎 他 平凡社 1982
「花のおもしろフィールド図鑑 秋」ピッキオ 実業之日本社 2002

「見つけたい楽しみたい野の植物」近田文弘・清水建美 旺文社 2000
「沢井トメノ 十勝本別分類アイヌ語辞典」本別町教育委員会（編・発行）1989
「知里真志保著作集 別巻Ⅰ 植物編・動物編」知里真志保、平凡社、1976

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

（在来種）
草花

（外来種）
草花

哺乳類

（水辺）
鳥類

（草原・樹林）
鳥類
ワシ・タカ